

人工股関節置換術

▶ 股関節の働き ▶ 手術による改善 ▶ 股関節置換術の手術 ▶ 手術後 ▶ 退院後の注意 ▶ メモ

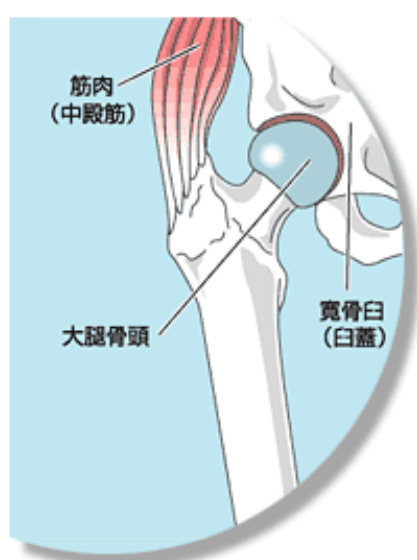
股関節の働き

股関節は身体の中の最も大きな関節で、体重を支えています。健康な股関節ではねじったり、大きく動かしてもはずれたりせず、安定しているので、痛みなく歩いたり、しゃがんだり振り向いたりできるのです。しかし、股関節に問題が生じると、動くとき痛むようになり、ひどい場合にはただ立っているだけで痛むようになります。

健康な股関節

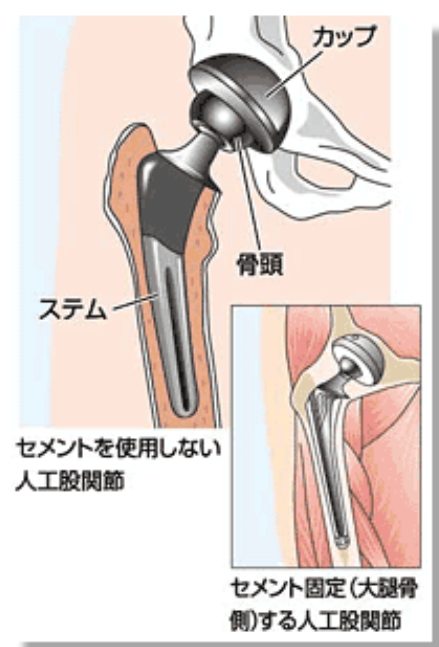
股関節は太腿の骨（大腿骨）の上端、丸くなっている骨頭が骨盤のくぼみ（寛骨臼）にはまり込むようになって関節を形作っています。関節の表面はなめらかな軟骨におおわれており、大きな筋肉によって自在に動かすことができます。

- 関節軟骨は、関節の表面（骨の端）をおおっているなめらかな層です。健康な軟骨は股関節にかかる体重を吸収し、なめらかにすべって動くようにしています。
- 筋肉は股関節や脚を動かしています。特に中殿筋は立ったり、歩いたりする際に重要です。



人工股関節とその固定方法

人工股関節は特殊な金属、プラスチック（ポリエチレン）、セラミックなどで作られています（写真下例）。大腿骨側（ステム）と骨頭、寛骨臼側（カップ）の部品が組み合わさって人工関節を構成します。大きさや機種など、患者さんに適したものを選んで使用します。



人工股関節の固定方法として、セメントを用いる方法と、用いない方法があります。

セメントは金属を骨に直接につなぎ、固定するものです。一方、セメントを使用しないシステムは表面に特殊な加工がされていて、手術後骨が入り込んで固定されます。骨が入り込んで金属と固定されるまで少し日数が必要です。

人工股関節は、大切に用いれば長い耐久性があります。もしすり減ってしまった場合には再度取り替えることもできます。



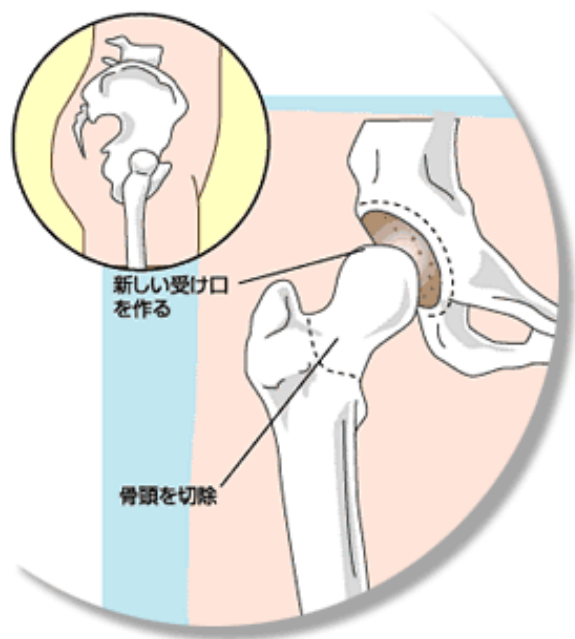
セメントを使用しない人工股関節 セメント固定する人工股関節

手術

手術の準備が整うと、患者さんを手術室へお連れします。そこで麻酔をかけます。全身麻酔あるいは腰椎麻酔をおこないます。股関節を展開して、傷んだ骨を全てきれいに取り除き、人工関節を固定します。

■ 骨の切除

太腿の骨の骨頭を切り、骨盤側の受け口（寛骨臼）の表面を滑らかにします。人工関節のカップを骨盤にはめ込みます。ネジやセメントを使って固定します。



■ 新しい関節の設置

人工関節を太腿の骨にはめ込みます。

人工関節がしっかりはまったら、人工の骨頭とカップを組み合せてみます。

この場合もセメントを使うことがあります。セメントを使うかどうかは主治医が患者さんの骨を見て、最適な方法を選びます。

